

グロス株ポートフォリオ分析

基準日: 2026年8月
作成: A. I. P 株式会社

セクターローテーション分析で選好する「情報技術・資本財（ロボティクス）」から厳選する成長株戦略

1 前提となるマクロ環境分析（2026年8月現在）

① セクターローテーション分析との整合

今月のセクターローテーション分析で「強気」評価とした情報技術・金融・資本財のうち、高成長率・高PER許容・イノベーション性というグロス株的特性に合致する情報技術・資本財（ロボティクス／自動化領域）の2セクターから銘柄を厳選する。先月まで組み入れていた一般消費財セクターは、急速な円高進行を受けて今月「中立」に格下げされたため対象から除外した。

② AI投資サイクルの調整は「押し目」と判断

半導体関連株は中東情勢の緊迫化を背景に短期調整局面にあったが、売り圧力はピークを越えたとの見方が広がる。日本企業のAI・半導体関連の経常利益予想は年初比2.2倍まで拡大しており、構造的な需要の強さは不変。調整局面はむしろグロス株の仕込み場と位置付ける。

③ ロボティクス・自動化領域はAI設備投資の裾野拡大の受益者

防衛・インフラ投資の拡大に加え、AI関連の設備投資需要が周辺の工場自動化（FA）・ロボティクス領域にも波及。内需比率が相対的に高く、為替変動の影響を受けにくい銘柄も多い。

④ 金利・為替：急速な円高進行はグロス株にとって「両面」の材料

7月30～31日の為替介入でドル円は163円台から158円台へ急落した。海外売上比率の高い半導体製造装置メーカー（東京エレクトロン・アドバンテスト等）にとっては円換算収益の目減りという逆風となる一方、日米金利差はなお高水準でFRBもタカ派姿勢を維持しており、高PER銘柄の将来キャッシュフロー割引率を大きく押し上げる展開には至っていない。金利・為替の両方向のリスクを注視しつつ、構造的なAI投資需要を軸に投資判断を行う。

2 最適な構成比率と主要投資指標

■ ポートフォリオ目標配分

情報技術
(55%)

資本財(ロボ)
(45%)

※セクターローテーション分析でオーバーウェイトと判定したセクターのうち、特に成長性の高いテーマ（AI半導体・ロボティクス自動化）に絞り込んで配分します。

■ ポートフォリオ予想総合指標（加重平均）

約 28%

平均売上成長率(前年比)

約 32倍

平均PER

約 22%

平均EPS成長率

6銘柄

組入銘柄数

2セクター

対象セクター数

10～15%

期待トータルリターン

3 採用銘柄・ETFの詳細分析

銘柄名（コード）
／比率

主要指標

株価上下要因・現在の位置

選定理由・スポンサー評価

情報技術

東京エレクトロン

売上成長率: 約20%
PER: 約28倍

中東情勢を背景とした半導体株全般の調整局面は一服し、先端ロジック・メモリ向け装置

半導体製造装置の世界大手として、AI投資サイクルの中核的な受益者。調整は押し目買いの

銘柄名（コード） ／比率	主要指標	株価上下要因・現在の位置	選定理由・スポンサー評価
(8035)		需要は底堅い。急速な円高は円換算収益にはやや逆風。	好機。
情報技術 アドバンテスト (6857)	売上成長率: 約35% PER: 約35倍	AI半導体向けテスト需要の急拡大が続き、業績予想の上方修正が相次いでいる。	AIチップの検査工程で高いシェアを持ち、AI投資サイクルの中でも特に高い成長率を誇る銘柄。
情報技術 レーザーテック (6920)	売上成長率: 約25% PER: 約34倍	EUV関連の検査装置需要が最先端プロセス投資の拡大とともに増加基調。	EUVフォトリソマスク検査装置で世界シェア100%に近い独占的地位を持ち、微細化投資が続く限り高成長が期待できる。
資本財(ロボ) ファナック (6954)	売上成長率: 約18% PER: 約27倍	AI・自動化投資の拡大を受け、工場自動化（FA）関連の受注が回復基調。	産業用ロボット・CNC装置の世界大手として、AI設備投資の裾野拡大を最も享受しやすい銘柄。
資本財(ロボ) キーエンス (6861)	売上成長率: 約12% PER: 約38倍	高収益なファクトリーオートメーション（FA）センサー事業が、設備投資需要の拡大とともに成長を続ける。	圧倒的な営業利益率を誇る優良グロース銘柄で、景気後退局面でも高い収益性を維持してきた実績がある。
資本財(ロボ) 安川電機 (6506)	売上成長率: 約15% PER: 約29倍	中国向けを含むロボット需要の底打ち感が強まり、AI・EVバッテリー工場向けの受注が回復。	産業用ロボット・モーションコントロールの大手として、自動化投資の裾野拡大を取り込みやすい成長株。

4 資金投下・時間分散戦略（2段階投資の執行）

【第1弾】現在（2026年8月）：資金の50%を即時投入

半導体関連株の調整一服を「押し目」と捉え、まずは予算の半分を上記の配分比率（55:45）で買い付け、中長期の成長ストーリーへの投資を開始します。

【第2弾】秋口（2026年9～10月）：残りの50%を投下

11月米中間選挙前後のボラティリティ上昇局面でグロース株が大きく調整する場面があれば、残りの50%資金で押し目買いを執行し、取得単価を最適化します。

5 出口戦略（売り時・利益確定の目安）

■ キャピタル利益確定とリバランスの最適タイミング

① 情報技術：AI投資サイクルのピークアウト兆候が出た局面

半導体設備投資の伸び率鈍化や在庫調整の兆候が明確化した場合、段階的に利益確定を検討します。

② 資本財（ロボ）：長期保有（維持）またはリバランス

ロボティクス自動化は複数年の構造的テーマであるため、基本は保有継続とし、四半期決算での成長率鈍化サインと円高進行の影響に注意しながら追従します。

